

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2019-2023」(案)の市民意見募集結果

1 募集期間

平成30年12月25日(火)から平成31年2月5日(火)まで

2 周知方法

ホームページ掲載, 市民しんぶん掲載(1月1日号), 市民意見募集冊子の配布(市役所案内所, 各区役所・支所, 大学のまち交流センター, 国際交流会館, 大学コンソーシアム京都加盟大学, 青少年活動センター, 地域内及び周辺の市立図書館, 児童館, 文化施設等), イベントでの周知ブース出展, 大学の講義等での説明 等

3 募集結果

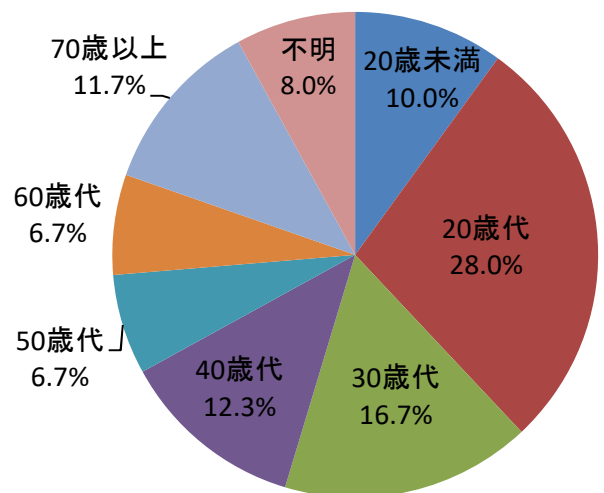
(1) 意見数

意見者数: 300人 意見総数: 467件

(2) 御意見をいただいた方

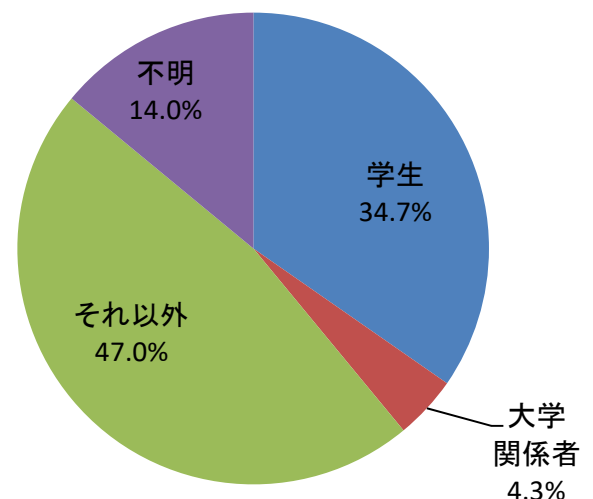
ア 年齢

年代	人数	割合
20歳未満	30人	10.0%
20歳代	84人	28.0%
30歳代	50人	16.7%
40歳代	37人	12.3%
50歳代	20人	6.7%
60歳代	20人	6.7%
70歳以上	35人	11.7%
不明	24人	8.0%
合計	300人	100%



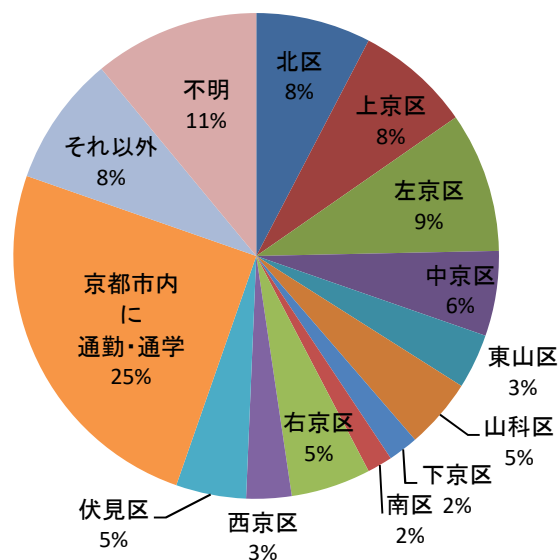
イ 属性

	人数	割合
学生	104人	34.7%
大学関係者	13人	4.3%
それ以外	141人	47.0%
不明	42人	14.0%
合計	300人	100%



ウ 居住地等

行政区等	人数	割合
北 区	23人	7.7%
上京区	23人	7.7%
左京区	28人	9.3%
中京区	17人	5.7%
東山区	11人	3.7%
山科区	14人	4.7%
下京区	6人	2.0%
南 区	5人	1.7%
右京区	16人	5.3%
西京区	9人	3.0%
伏見区	14人	4.7%
京都市内に 通勤・通学	75人	25.0%
それ以外	26人	8.7%
不 明	33人	11.0%
合計	300人	100%



(3) 御意見の内訳

御意見の該当箇所		意見数
計画全体		28件
第1編「計画策定の趣旨など」		3件
第2編「大学・学生を取り巻く状況と課題」		1件
第3編「目指すべきビジョンと基本方針」		6件
第4編 「施策の推進」	1 京都で学ぶ魅力の向上	65件
	2 大学・学生の国際化の促進	37件
	3 大学の枠を超えた学生の活動の推進	92件
	4 学生の進路・社会進出の支援	41件
	5 大学との連携による京都の経済・ 文化・地域の活性化	27件
	6 国内外への魅力発信の強化	63件
その他		104件
合 計		467件

(4) 御意見の区分

A 次期計画に反映するもの	…	12件
B 次期計画に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの	…	237件
C 次期計画の推進に当たり、参考とするもの	…	136件
D その他、市政運営等で参考とするもの	…	82件
合計		467件

(5) 主な御意見

ア 次期計画に反映するもの（A）

- ・ 「5 計画の推進に向けて」において、この計画を産官学がどのように推進していくのかなどP D C Aサイクルを、ポンチ絵などを使ってもう少し具体的にしたいほうがいい。
- ・ 学生に興味を持ってもらえるような工夫が必要。
- ・ 女子学生の防犯の観点から、街路灯の整備や一般家庭の門灯をつけるような取組を推進してほしい。
- ・ 地域等での防災訓練の実施
- ・ パートナーシティや世界歴史都市連盟などの京都市と関連している世界の都市に呼びかければ留学生が増えるのではないか。
- ・ 留学生にぜひ京都の文化を知ってもらい地域と交流することで世界に羽ばたく人材に育てて欲しい。
- ・ 近年京都進出が相次ぐグローバル企業やソーシャルビジネス、NPOなども含め、多様な未来の選択肢が開ける可能性を発信することも重要ではないか。
- ・ 進路を決める際に、高校の先生の薦めもあって、京都の大学を考えるようになった。先生にも、京都の大学を選択肢に含むことを薦めてもらうようにする。

イ 次期計画に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（B）

- ・ 他大学との交流を盛んにできる場と機会があれば良い。
- ・ 大学の障害学生支援の充実を図って欲しい。
- ・ 留学生の誘致などによる国際化が必要。
- ・ 地域活性化活動等に取り組めるよう、行政だけではなく、企業や住民が協力して頑張らないといけない。
- ・ 地域の自治会に学生が参画する。
- ・ 学生に京都市に定着してもらうためには、京都の企業のことを広く知ってもらう必要がある。
- ・ 芸術系の大学が他府県に比べて非常に多く、このような特性を十分に生かした取組となることを大いに期待している。
- ・ 単位互換制度やキャンパス文化パートナーズ制度等の情報が、学生に伝わっていない。

ウ 次期計画の推進に当たり、参考とするもの（C）

- ・ 留学生との交流拠点があると良い。
- ・ 数多くの学生団体があるので、一体となって集結したイベントを行ってみてはどうか。
- ・ 外国から来られた方に、京都のPRができる人や会社が増えると良い。
- ・ 大学主催のイベントを開催できる場所作り。
- ・ 学生に情報を発信する際に、大学の講義内での告知、マスメディアを利用した告知、新入生配布資料と一緒に広報してもらうといった広報活動も必要。
- ・ 学生は学割という言葉に弱いので、その情報を発信してほしい。